

(様式7)

公共事業継続箇所評価調書

評価確定日(平成24年09月28日)

事業コード	H24-建-継-6		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(改築)		部局課室名	建設部 道路課
事業種別	1次改築(バイパス)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2492
路線名等	(一) 白岩角館線		担当課長名	阿部 喜巳
箇所名	仙北市大威徳橋		担当者名	齋藤 篤
総合計画との関連	政策コード	17	政 策 名	新たな生活圏の創造
	施策コード	04	施 策 名	地域内交通の整備
	指標コード	01	施策目標(指標)名	県道の整備推進

1. 事業の概要

事業期間	H20 ~ H32 (13年)		総事業費	10.0億円	国庫補助率	7/10
事業規模	延長 L=780m、幅員 W=6.0(11.0) (1.25-3.0-3.0-1.25-2,5)					
事業の立案に至る背景	○当該路線は、仙北市南部の沿道集落の通勤、通学、通院等の日常生活を支える重要な路線である。しかし、当該区間は急カーブ(Rmin=12m)が連続し、通学路及びバス路線に指定されているにもかかわらず、歩道も無いことから、歩行者や地域内交通の安全確保ができていない状況にある。また大威徳橋は昭和37年に架設で架設後50年経過しており、コンクリートの劣化など機能の低下が著しい状態となっている。当該区間は玉川広域基幹河川改修事業区間であり、橋梁の架け替えが必要となっていることから、河川改修事業と一体で整備することで、生活道路としての日常機能と地域住民の安全性を早急に確保するものである。					
事業目的	○交通の隘路区間(幅員狭小、線形不良)の解消 ○鉄道の利便性向上(角館駅) ○地域住民、道路利用者の安全確保					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		1,000,000	1,000,000	0	
	経費内訳	工事費	850,000	850,000	0	
		用補費	100,000	100,000	0	
		その他	50,000	50,000	0	
	財源内訳	国庫補助	550,000	700,000	150,000	
		県債	427,000	270,000	-157,000	
その他		0	0	0		
一般財源		23,000	30,000	7,000		
事業内容		調査・設計、改良工、舗装工、橋梁工	調査・設計、改良工、舗装工、橋梁工		国の制度改正により、国庫補助率に変更となった。	
事業の進捗状況	○用地買収(進捗率97%)及び調査・設計を進めている。 ○事業の進捗率19%(平成23年度末)					
事業推進上の課題	○玉川河川整備計画を見直し中である。					
関連する計画等	○ふるさと秋田元気創造プラン「地域医療などを支える救急医療ネットワークの整備」「水害・土砂災害への対応力強化」を支援する事業					
情勢の変化及び長期継続の理由	○市立角館総合病院が災害拠点病院に指定された。 ○H9.3.22 秋田新幹線開業					
事業効率把握の手法及び効果	指 標 名	県道改良率				
	指 標 式	改良済延長/路線実延長				
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無		○ 有 ● 無	
	目標値 a	70 %		データ等の出典	道路課調べ	
	実績値 b	72 %				
	達成率 b/a	102.9 %		把握の時期	平成24年4月	

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	○当該区間は線形不良 (最小曲線半径 12m) で、冬期堆雪幅が無く、1年を通じた交通の安全確保が望まれる。 ○通学路指定区間にもかかわらず歩道が無く、事故が多発 (事故率 68.8 件 / 億台km) している。過去 5 年間で重傷事故が 2 件発生している。	11 点
緊 急 性	○ふるさと秋田元気創造プラン「地域医療などを支える救急ネットワークの整備」に位置づけあり。 ○大威徳橋は昭和37年に架設し、架設後50年経過している。耐震性の劣り、コンクリートの劣化など機能の低下が著しい。	12 点
有 効 性	○救急告示病院へのアクセス道路としての活用が見込まれる。 ○角館駅や仙北市役所へのアクセス道路としての活用が見込まれる。	23 点
効 率 性	○事業の費用便益比は 1.01 であり効率性は高い。 ・総便益の現在価値 8.9 億円 ・総費用の現在価値 8.8 億円 ○玉川改修事業と一体となって効率的に整備ができる。	20 点
熟 度	○用地買収の進捗率は 97% で概ね完了している。	15 点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III) 事業箇所としては優先度は高く、事業は引き続き実施すべきである。	81 点
総 合 評 価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

引き続きコスト削減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H24-建-継-6)

適用基準名 道路改築事業 (地域内・生活圏交通促進)

箇所名 (仙北市大威徳橋)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数 ・車道幅員<5.5m ・最小半径<100m ・最急勾配>5% ・冬期堆雪巾なし	3箇所以上	8	6	
		2箇所	6		
		1箇所	4		
		0箇所以上	0		
	道路環境上の欠陥該当項目 ・現道の混雑度≥1.0 ・現道の旅行速度≤30km/h ・現道の事故率≥50件 ・通学路指定で歩道なし ・重大交通事故が発生	5件該当	7	5	
		4件該当	6		
		3件該当	5		
		2件該当	4		
		1件該当	2		
	該当項目なし	0			
計			15	11	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無 ・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	あり	4	4	
		なし	0		
		位置づけあり	3		
	市町村合併支援道路	位置づけなし	0	0	
		増加している	3	3	
	交通量	増加していない	0		
あり		5	5		
特有の課題の有無 老朽橋、災害危険箇所、 冬期通行不能区間等	なし	0			
	計		15	12	
有効性	道路の位置づけ				
	生活圏30分形成道路等	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	地域防災計画に重要な道路	該当する	7	0	0
該当しない		0			
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	9	9		
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
計			30	23	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比 (B/C)	1.0以上	5	5	
		0.5以上1.0未満	3		
		0.5未満	0		
	計画交通量	1,000台/日以上	5	5	
		500台/日以上1,000台日/未満	4		
		300台/日以上500台日/未満	3		
		300台/日未満	0		
	コスト縮減	あり	5	5	
		なし	0		
事業中止による影響	既投資額の損失大	5	5	e t c 大規模バイパス e t c 部分的ミニバイパ e t c 現道拡幅	
	既投資額の部分的損失	4			
	既投資額の損失が少ない	3			
計			20	20	
熟度	事業の進捗進捗状況				
	事業の進捗 (事業費)	8割以上完了	10	5	
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
		1割未満	2		
	用地買収の進捗 (面積)	8割以上完了	10	10	
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
1割未満		2			
計			20	15	
合計			100	81	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上~80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		